

令和3年度
霧島市青少年議会

提言通告一覧
及び
答弁書

～霧島市教育委員会～

目 次

- 令和3年度 霧島市青少年議会 議員名簿（提言順）・・・・・・・・・・ 1
- 令和3年度 霧島市青少年議会 議事日程 ・・・・・・・・・・・・・・ 2
- 令和3年度 霧島市青少年議会 提言通告一覧表 ・・・・・・・・・・・・ 5
- 令和3年度 霧島市青少年議会 答弁書 ・・・・・・・・・・・・・・ 13

令和3年度霧島市青少年議会議員名簿(提言順)

令和3年8月22日(日)

提言順位	議席番号	在籍校	議員氏名	提言のテーマ	予定時間
1	10	霧島市立 国分中央高等学校	田原 茉奈	少子高齢化に伴う今後の人材確保について	1部 14:10~15:00
2	12	鹿児島県立 隼人工業高等学校	鶴水 芽依	市民が安全に過ごすことができる環境づくり	
3	4	霧島市立 溝辺中学校	藤澤 柊介	農業の担い手の育成・確保のための取組	
4	5	霧島市立 横川中学校	井ノ上 橙和	子どものスポーツ振興を目指す取組	
5	8	霧島市立 霧島中学校	久保田 笑弥	市民活動の支援と協働の推進のための取組	
6	13	国立 鹿児島工業高等専門学校	塩田 雄大	霧島市を音楽でつなぐ取組	
7	15	仁心看護専門学校	百原 康介	「人にやさしく人をはぐくむ、一人ひとりが輝きにぎわう、多機能都市」の実現・充実に 目指した取組	2部 15:10~16:00
8	16	都築教育学園 第一幼児教育短期大学	別府 悠莉	多様なニーズに応じた子育て環境の充実のための取組	
9	1	霧島市立 国分中学校	徳永 のの	ごみの減量化・資源化のための取組	
10	9	霧島市立 国分中央高等学校	ライリー 菜奈子	魅力ある霧島市立国分中央高等学校の推進のための取組	
11	11	鹿児島県立 隼人工業高等学校	坂元 玲岳	多様な人材を生かした雇用の促進のための取組	
12	3	霧島市立 溝辺中学校	加来 恩	自助・共助を主体とした地域防災力の強化のための取組	
13	6	霧島市立 横川中学校	杉田 菜織	地域間教育格差のない街を目指す取組	
14	7	霧島市立 霧島中学校	上松 瀬与夢	ごみの減量化・資源化のための取組	
15	14	国立 鹿児島工業高等専門学校	山下 紗季	市の将来を担う子どもたちに負担を残さない公共施設のあり方について	
16	2	霧島市立 国分中学校	齋藤 大翔	市の将来を担う子どもたちのための公共施設のあり方について	
17	17	都築教育学園 第一幼児教育短期大学	内 楓夏	霧島市の子育て環境の充実の取組	

令和3年度霧島市青少年議会議事日程

令和3年8月22日(日) 午後2時10分開議

日程 番号	事件 番号	件 名	備 考
1		会議録署名議員の指名について	
2		会期の決定について 令和3年8月22日(日間)	
3		<p>提言</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. (議席番号10番) 田原 議員 ・少子高齢化に伴う今後の人材確保について 2. (議席番号12番) 鶴水 議員 ・市民が安全に過ごすことができる環境づくり 3. (議席番号4番) 藤澤 議員 ・農業の担い手の育成・確保のための取組 4. (議席番号5番) 井ノ上 議員 ・子どものスポーツ振興を目指す取組 5. (議席番号8番) 久保田 議員 ・市民活動の支援と協働の推進のための取組 6. (議席番号13番) 塩田 議員 ・霧島市を音楽でつなぐ取組 7. (議席番号15番) 百原 議員 ・「人にやさしく 人をはぐくむ 一人ひとりが輝きにぎわう 多機能都市」の実現・充実を目指した取組 8. (議席番号16番) 別府 議員 ・多様なニーズに応じた子育て環境の充実のための取組 9. (議席番号1番) 徳永 議員 ・ごみの減量化・資源化のための取組 	

日程 番号	事件 番号	件 名	備 考
3		<p>10. (議席番号9番) ライリー 議員 ・魅力ある霧島市立国分中央高等学校の推進のための取組</p> <p>11. (議席番号11番) 坂元 議員 ・多様な人材を生かした雇用の促進のための取組</p> <p>12. (議席番号3番) 加来 議員 ・自助・共助を主体とした地域防災力の強化のための取組</p> <p>13. (議席番号6番) 杉田 議員 ・地域間教育格差のない街を目指す取組</p> <p>14. (議席番号7番) 上松瀬 議員 ・ごみの減量化・資源化のための取組</p> <p>15. (議席番号14番) 山下 議員 ・市の将来を担う子どもたちに負担を残さない公共施設のあり方について</p> <p>16. (議席番号2番) 齋藤 議員 ・市の将来を担う子どもたちのための公共施設のあり方について</p> <p>17. (議席番号17番) 内 議員 ・霧島市の子育て環境の充実の取組</p>	

令和3年度
霧島市青少年議会

提言通告一覧表

令和3年度霧島市青少年議会
提言通告一覧表

令和3年8月22日(日)午後2時10分～

提言 順位	提言者	提言内容	提言の相手
1	田原 茉奈 タハラ マナ 国分中央高 等 学 校	<p>私は、霧島市の少子高齢化に伴う今後の人材確保について提言します。</p> <p>少子高齢化に伴う労働力不足を解消するためには、性や年齢国籍を問わず、多種多様な人材が就業できる体制を整える必要があります。</p> <p>中でも、若者の定住促進が重要だと思います。そこで、まず、小児科に特化した病院を設置してはどうでしょうか。若者の労働力を確保するためには、子育て世代が安心して暮らせる地域づくりが不可欠です。小児科が充実した病院があることで、定住する割合が増えると思います。</p> <p>次に、日本語教室の充実です。外国人の方々も労働力として日本を支えてくれると思います。外国人の方々が安心して生活するためには、語学支援が不可欠です。そこで、市が、リーダーシップを取って日本語教室を無料で開くことはできないでしょうか。</p> <p>以上の2点について、考えていただけないでしょうか。</p>	市 長
2	鶴水 芽依 ツルミス メイ 隼人工業高 等 学 校	<p>私は、市民が安全に過ごすことができる環境づくりについて提言します。</p> <p>私は登下校で自転車を利用することがあり、その際けがや事故の危険性をたびたび感じています。ここでは2つ紹介します。1つ目は、歩道の草や木のせいで道が狭まったり、視界が遮られたりすることです。道自体が狭いのにも関わらず、道の半分以上を草が占めていることがありました。また、木で歩行者用信号機が隠れている所があり、ハラハラします。2つ目は、多くの段差があるということです。歩道はあるものの15cm とかなりの段差であり、以前段差を自転車で通った時、友達の前のかごに入れていたかばんが前に飛んだり、私自身車道の方へとび出してしまいそうになったことがあります。</p> <p>このように、環境づくりが整っていないと事故等の危険性が上がると思います。これらを防ぐために人通りの多い少ないに関わらず整備を進めていくべきではないでしょうか。</p>	市 長
3	藤澤 柊介 フジザワシュスケ 溝辺中学校	<p>私は、農業の担い手の育成・確保のための取組について提言します。</p> <p>霧島市では年々高齢化が進んでおり、農業の営むことのできる人が減っています。また休耕地も増えてきています。この状況から、農業の担い手確保は先延ばしできない重要な課題だと思います。そこで、担い手を市内だけでなく県外に広く求めていってはどうでしょうか。そのためには市のホームページ等で、霧島市や農業の魅力を積極的に発信し、中高生でも分かるような情報を提供してほしいと思います。また、農業系の高校・学科や大学・専門学校で学んでいる方々に霧島市内で耕作可能な土地や住宅を紹介したり、一般の人々向けに民泊体験等のイベントを開催し、霧島の農業について多くの方に興味をもってもらったりすることも効果的だと考えられます。未来の霧島市の農業を担う人材確保のため、分かりやすく積極的な広報活動やイベントの企画を推進していただけないでしょうか。</p>	市 長

令和3年度霧島市青少年議会
提 言 通 告 一 覧 表

令和3年8月22日(日)午後2時10分～

提言 順位	提言者	提言内容	提言の相手
4	井ノ上 橙和 イノウエ トワ 横川中学校	<p>私は、子どものスポーツ振興を目指す取組について提言します。</p> <p>私たちは横川運動公園の効率的な活用を目指しています。今現在、使用できる設備は、温水プール、総合体育館、庭球場があります。</p> <p>中でも総合体育館は、国体のハンドボール女子の会場となっているため、修繕等も行われて以前よりもよりよく利用出来る環境となりましたが、その他の施設は、やや整備の不備が感じられるところがあります。また、霧島市の児童利用に対して、学校の部活や少年団等へ利用料金の助成をしていただければと思います。他にも横川中学校のソフトテニスコートはとても荒れていて、費用のかかる総合グラウンドの利用は大会前などにしか使えていません。だから、各団体、霧島市児童個人への施設利用の負担を軽減してはどうでしょうか。</p> <p>このようなことから、霧島市の若い世代がよりがんばりやすくなるために、少しでも負担を減らすことはできないでしょうか。</p>	市 長
5	久保田笑弥 クホ`タ エネ 霧島中学校	<p>私は、市民活動の支援と協働の推進のための取組について提言します。</p> <p>私の住む旧霧島町ではここ数十年間で人口が減少し、それに伴い少子高齢化も進んでいます。私の通う霧島中学校でも十年前は百名以上いた生徒数も現在では82名となりあきらかに人口が減少しています。霧島市では利便性を求め一部の地域に人口が集中しています。私の住む旧霧島町は買い物や交通など不便なところもありますが自然が豊かで人々も温かく素晴らしい所です。</p> <p>そこで子供もお年寄りもふれ合いながら楽しく利用できる施設を作ってみてはどうでしょうか。例えば、畑や田んぼなどで地域の方々と一緒に誰でも体験できる農業体験型施設、採れた食材で子供やお年寄りでご飯を作り一緒に食べることができるふれあい食堂の設置です。このような施設があればここで子育てをしてみたいという家族が増え地域の活性化に繋がると思います。ぜひこの施設の設置を検討していただけないでしょうか。</p>	市 長
6	塩田 雄大 シオタ ユウダイ 鹿児島工業 高等専門 学 校	<p>私は、霧島市を音楽でつなぐ取組について提言します。</p> <p>以前、ある管弦楽団の演奏を聴きに行った際、大人に混じって小学生の男の子がバイオリンを弾く姿を見ました。この男の子のように小さい頃から弦楽器を習っている人や、中高生で吹奏楽をしている人は霧島市内でも多いと思います。私は、そのような中高生を集めた学生オーケストラを霧島市で作ってみてはどうかと考えました。オーケストラはそれぞれ異なった成り立ち、歴史を持ったいろいろな楽器が一つの楽団となったものです。普段はライバル同士であるスポーツ選手がオリンピックになると、日の丸を掲げ、一つのチームとなる姿は見ていてとてもワクワクし、勇気をもらえます。同じ地域に住み、音楽をしているという共通のことで一つになる姿にも同じワクワク感があると私は思います。</p> <p>地域の学生が一つになれる、音楽に関する新しい取組を行えないでしょうか。</p>	市 長

令和3年度霧島市青少年議会
提言通告一覧表

令和3年8月22日(日)午後2時10分～

提言順位	提言者	提言内容	提言の相手
7	百原 康介 モモハラ コウスケ 仁心看護 専門学校	<p>私は、霧島市の将来像である「多機能都市」の実現に向けて、デジタルメディア利用の観点から、霧島市のLINE公式アカウントの作成活用を提言いたします。</p> <p>LINEの運用には、広報活動、産業の活性化、ごみの資源化、人材雇用等多面的なメリットがあります。例えば、鹿屋市は、LINEでごみの名前を送信することで、そのごみの分別方法を知ることができるサービスを実施しており、既に普及しているデバイスを利用することで、情報発信が容易になるだけでなく、市民の利用できる社会資源を提供できることを示しています。</p> <p>運用次第では、潜在的な市民の声をキャッチしたり、市外への情報発信により、観光産業の活性化が期待でき、現在であれば、COVID-19 のワクチン接種について市民へ迅速な情報発信及び疑問点の解消ができるなど、市民の不安や疑念の解消にも効果を発揮すると考えます。</p> <p>まずは、単純な情報発信の手段としてご検討されてはいかがでしょうか。</p>	市長
8	別府 悠莉 ベップ ユウリ 第一幼児教育 短期大学	<p>私は、多様なニーズに応じた子育て環境の充実のための取組について提言します。</p> <p>私は、保育者を目指して霧島市で幼児教育を学ぶ者として、霧島市の子育て環境の充実に貢献したいと考えました。</p> <p>多様なニーズとは、障がいをもつ子どもや、LGBT の子どもも安心して生活できる環境を作ることだと思います。そのためには、講演を開いたりポスターを作ったりするなどの活動を通して、障がいや LGBT がどのようなものなのかを周知させることが大切だと思います。</p> <p>そうして、多様な生き方を尊重することで、子育てがしやすくなり、地域住民も現代における生き方の多様性を知ることができ、地域全体で親子を支えられるのではないかと考えます。</p> <p>このように、障がいをもつ子どもや LGBT の子どもについて知り、多様な生き方を尊重できる地域にするための活動ができないでしょうか。</p>	市長
9	徳永のんの トクナガ ノノ 国分中学校	<p>私は、ごみの減量化・資源化のための取組について提言します。</p> <p>レジ袋が有料化されて1年です。今では、多くの方がマイバッグの持参を心がけていると思います。そこで私はマイバッグの持参の他に、ごみの減量化・資源化のために4Rのリフューズ、リデュース、リユース、リサイクルを大切にしたいと考えています。特にリユース、リサイクルは、私たち中学生でも取り組みやすい内容だと思います。必要がなくなったものをすぐ捨てるのではなく、再利用の方法を考えたり、資源の活かし方を知り、体験したりすることが重要だと考えます。</p> <p>そこで、ごみの減量化や資源化の大切さを知るために、小中学生を対象にした特別授業を行い、リサイクルについて考える機会を増やすことはできないでしょうか。また、小中学生が運営するフリーマーケットのイベントを企画し、子どもたちが実際に参加できるような取組を進めることはできないでしょうか。</p>	市長

令和3年度霧島市青少年議会
提 言 通 告 一 覧 表

令和3年8月22日(日)午後2時10分～

提言 順位	提言者	提言内容	提言の相手
10	ライリー菜奈子 ライリーナノコ 国分中央高 等 学 校	<p>私は、魅力ある霧島市立国分中央高等学校の推進のための取組について提言します。</p> <p>国分中央高校の一番の強みは、唯一の市立高校であることです。私は、国分中央高校の魅力を、更に発信するためには、市とのタッグを強力にする必要があると考えています。現在においても生徒会や部活動など、単体で市の様々な活動に参加していますが、もっと継続的な活動に参加させていただけないでしょうか。例えば、霧島市のビッグイベントである初午祭や国分夏祭り等の運営に参加させていただけないでしょうか。初午祭や国分夏祭りは、多くの市民の方々と接触できるチャンスです。市主催の行事等に私たちがスタッフとして携わることで、霧島市立国分中央高校の存在をアピールできると思います。</p> <p>そこで、市と国分中央高校の結び付きを更に強くする具体的な機会を考えていただけないでしょうか。</p>	市 長
11	坂元 玲岳 サカモトアキタ 隼人工業高 等 学 校	<p>私は、多様な人材を生かした雇用の促進のための取組について提言します。</p> <p>これを提言しようと思った経緯は、障害者の方々や外国人の方々に、もっと働きやすい環境を提供できないかと思ったからです。障害者雇用の点について、大分県別府市に太陽の家という社会福祉法人があります。ここは、障害者の自立のための施設を運営しているのですが、企業にこれと似たような障害者労働のための施設を設置して頂きたいのです。</p> <p>もう一つ、外国人労働者に関してですが、外国人労働者の割合は年々増加しているので、約1年の研修期間を設け、社員の方々と共同生活の場を提供して頂きたいと思っています。これは障害者の方々についても同様に考えて頂きたいのです。</p> <p>とはいっても、企業が全ての諸費用を負担することは難しいと思うので、市が一部を負担する形で出資して頂くことはできないでしょうか。</p>	市 長
12	加 来 恩 カク メグム 溝辺中学校	<p>私は、自助・共助を主体とした地域防災力の強化のための取組について提言します。</p> <p>自然災害は、いつ・どこで起こるかわかりません。だからこそ、被害に備えられるように一人一人が常に防災意識を持っておく必要があると思います。霧島市の場合、各地域で起こる可能性の高い災害は違ってきます。そこで、まず一つ目に小さい子から高齢者までがいつでも確認できるような防災マップをつくる必要があると思います。現在、市のホームページにも載ってはいますが、項目が多く、どこを確認したらいいのか分からない方がいらっしゃるのではないかと思います。二つ目に各地域で予想される災害に備えた避難訓練を行うべきだと思います。自分のことだけでなく高齢者や体の不自由な方の安全かつスムーズな避難行動を確認しておく必要があります。そのため、実用的な防災マップの作成と避難訓練の検討をしていただけないでしょうか。</p>	市 長

令和3年度霧島市青少年議会
提言通告一覧表

令和3年8月22日(日)午後2時10分～

提言順位	提言者	提言内容	提言の相手
13	杉田 菜織 スキタ ナオ 横川中学校	<p>私は、地域間教育格差のない街を目指す取組について提言します。</p> <p>みなさんは、どのようにして学校に通っていますか。私は、ふれあいバスに乗って通っています。私の住む佐々木小校区から中学校までは8kmあり、朝早い人は、7時過ぎにバスに乗らなければならない人もいました。</p> <p>学校がテストなどで早く終わったときには臨時バスが出ます。ですが、帰りの時間にうまくあわなかったり、スクールバスしかでなくてふれあいバスがなかったりすると、親がむかえにくる人もいます。このように、住む場所のせいで親への負担も増えています。</p> <p>また、普段の下校のバスは、5時ごろにきます。そのため、部活動の終わりの時間には間に合わなかったり、親がどうしてもむかえにこられない人は、部活動を休んだりして練習の機会をうばわれています。</p> <p>この状況が続けば、横川に住む人の数が減っていくと思います。地域間教育格差をなくすために、マイクロバス等を柔軟に運行するなどの対応を取れないでしょうか。</p>	市長
14	上松瀬与夢 かみまつせあトム 霧島中学校	<p>私は、ごみの減量化・資源化のための循環型社会の形成についての取組の提言をします。</p> <p>私の住む霧島地区はたくさんの木々やきれいな水など多くの自然に囲まれている町です。この自然を残すために、よく父が言う言葉があります。「捨てればゴミ、再利用すれば資源。」私はこの言葉を聞いて考えてみました。飲み終わったペットボトルはキャップと本体を分別すれば再利用のための資源になります。同じくお菓子の個包装の袋や肉や魚のトレーも資源となりごみの減量化につながっていくと思います。霧島市民全体で、こういった活動をしている企業の協力をえて、見学をしたり、再利用された物を実際に見る機会があるとごみの減量化、資源化のための取組がさらに充実するものになると考えます。物を簡単に捨てるのではなく、再利用することを一人一人が考えることで循環型社会の形成にもつながっていくのではないのでしょうか。</p>	市長
15	山下 紗季 ヤマシタ サキ 鹿児島工業 高等専門 学 校	<p>私は市の将来を担う子どもたちに負担を残さない公共施設のあり方について提言します。</p> <p>霧島市には大規模合併により重複する公共施設が多数あるため、それらによる税金の負担が大きいと考えています。将来の子供達に負担を残さないためには施設の有効利用が必要です。その方法として学校施設の多機能化は効果的だと考えます。学校では、少子化により空き教室が多数発生しています。また、校庭や体育館は使っていない時間があるにも関わらず、地域の方々は利用できていません。</p> <p>この現状から、学校施設に複数の機能を持たせることで機能を維持したまま施設の有効利用に繋がり、利用頻度の低い施設の削減、そして施設の維持費削減に繋がると考えます。</p> <p>空き教室は公民館・保育園・高齢者支援施設などとして利用する、校庭や体育館は学校で使わない時間・曜日は地域の方々が運動施設として利用する、というような取組ができないのでしょうか。</p>	市長

令和3年度霧島市青少年議会
提 言 通 告 一 覧 表

令和3年8月22日(日)午後2時10分～

提言 順位	提言者	提言内容	提言の相手
16	齋藤 大翔 サイトウ ハルト 国分中学校	<p>私は、霧島市の将来を担う子どもたちのための公共施設のあり方について提言します。</p> <p>現在、世界を見たときに、コンピューター技術が非常に発達しています。さらに進歩していくことも確実です。私たちも学校で1人1台のタブレットを手にし、パソコンと触れる機会が増えました。しかし、周囲をみると、今までと同じように購入したゲームを楽しむことに満足している友達が多いことも事実です。そこで、ゲームを自分でつくることができたり、プログラミング、設計など、もっと自分の思い通りにコンピューターを使うことができたりする公共施設を設置することはできないでしょうか。</p> <p>子どもたちが、コンピューターをもっと学ぶ機会を増やすことで、より豊かな未来を創り出すことができると考えます。そのために、子どもたちが自由にコンピューターを使えるような、快適な学習環境となる公共施設を設置する取組はできないでしょうか。</p>	市 長
17	内 楓 夏 ウチ フウナ 第一幼児教育短期大学	<p>私は、霧島市の子育て環境の充実の取組について提言します。</p> <p>私は、今年から保育士になるための勉強をしています。近年で最も問題視されているのが、児童虐待問題です。虐待に発展しなくても、子育てに悩みを抱える親がたくさんいると思います。今日では、SNSの普及により、子育てに関する情報を容易に受け取ることができますが、直接保護者同士が悩みを相談したり、子ども同士のコミュニケーションをとったりする場所が必要だと考えます。</p> <p>そこで私は、市に子育てを支援する大規模な交流の場をお願いしたいと思います。子どもに関するすべての専門職の方が集まり、保護者の相談に乗ったり、子どもの様子を伺ったりできます。さらに子ども達にはさまざまな遊びを提供し、保育園などとはまた異なる人間関係を築いていくこともできます。保護者や子どもにとって、少しでも心が休まる憩いの場を設けていただけないでしょうか。</p>	市 長

令和3年度
霧島市青少年議会

答弁書

件 名	少子高齢化に伴う今後の人材確保について	提言順位	1
		提言者	田原議員
		答弁者	中重市長
		主務課	健康増進課／市民活動推進課

NO. 1 / 2

(答弁)

田原（たはら）議員のご提言について、お答えします。

これからの日本は、少子高齢化が進み人口が急減すると予測されています。人口の減少が進めば、経済活動の担い手である労働力が不足し、経済活動の停滞や、市場の縮小を招く恐れがあります。本市でも、中山間地域を中心に過疎化が進んでおり、重要な課題の一つとして捉え、「霧島市ふるさと創生総合戦略」に基づき、移住・定住の促進や子育て環境の充実等に取り組んでいます。

議員のご提言にあるように、性別や年齢、国、国籍を問わず人材を確保するということは、人口減少問題の解決のための有効な手段であると考えられます。また、若者の定住を促進することで、労働力不足を解消し、そのためには、子育て世代の方が安心して暮らせるように、小児科に特化した病院が必要であるという発想は大変素晴らしいと感心したところです。

本市には、小児科の診療を行っている民間の医療機関は18か所あります。このほか、

霧島市立医師会医療センターにおいても小児科を開設しています。医療センターは小児科に特化しているわけではありませんが、小児科医と看護師の体制を整え、小児疾患の24時間救急車搬送受け入れを行っています。これまでは、午後11時以降の深夜帯の救急車搬送については、主に鹿児島市へ搬送していましたが、昨年7月から24時間365日、医療センターでの対応が可能となっています。

現在、医療センターでは、小児科・小児外科を含む24の診療科を開設する新たな施設整

備計画を進めているところであり、完成後はこれまで以上に質の高い医療の提供や始良・伊佐地域の中心的な役割を果たしていくものと考えています。

今後も引き続き、子育て世代の方が安心して暮らしていけるように、小児医療体制の拡充に取り組むとともに、若者が定住し、本市の頼もしい担い手になっていただけるよう、

力を尽くしていきたいと考えています。

2枚目に続きます

次に、2点目にお答えします。

鹿児島労働局の公表によりますと、本市を含む始良・伊佐地区の企業で雇用されている外国人労働者数は、令和2年10月現在で911人であり、5年前の平成27年10月時点の298人と比較すると、3倍以上となっており、2年前の新たな外国人受入れ制度が開始されたことにより、今後さらに、外国人労働者の増加が予想されます。

さて、本市には、市民レベルにおける国際交流活動を推進し、諸外国との相互理解等を深めることにより、国際性豊かな人材の育成を図るとともに国際化に対応したまちづくりに

寄与することを目的に霧島市国際交流協会が設立されており、協会において、国際交流ボランティア制度があり、現在19名の語学ボランティアが登録されています。これらのボ

ランティアが支援を希望する外国人に対し、日常生活において円滑にコミュニケーションが取れるよう、日本語を教えることができますので、積極的に制度をPRしていきます。

また、今年度から乗り物の乗り方や銀行での手続きなどの日常生活に密着したテーマなどについても支援を行う、「外国人のための生活文化等講座」の開催を計画しています。

今後も、霧島市国際交流協会をはじめ、関係機関と連携し、本市で働き、生活する外国人が安心・安全に暮らせるよう努めてまいります。

件名	市民が安全に過ごすことができる環境づくり	提言順位	2
		提言者	鶴水議員
		答弁者	中重市長
		主務課	建設施設管理課

NO. 1 / 2

(答弁)

鶴水（つるみず）議員のご提言について、お答えします。

初めに、ご自身が日頃、通学に利用されている道路において、怪我や事故などの危険性を感じ、市民が安全に過ごすことができる環境づくりには、道路整備が必要であるとのことをご提言をいただき感謝いたします。

道路には、国道、県道、市道などがあり、通勤・通学、買い物などの日常生活に利用されているほか、観光や地域産業の物流、地域間交流などの観点からも大きな役割を担っています。

道路を安全に通行するためには、補修、修繕、草払いなどの維持管理が必要であり、

国道については国及び県が、県道については県が、市道については市が、それぞれ管理しています。

市においては、定期的に街路樹の剪定や草刈りを行っていますが、市道だけでも鹿児島と東京を結ぶ程の距離、約 1,608 キロメートルの延長があることから、管理が十分に行き届かない面もあります。

このような中、市民の地域活動による草刈りなどのボランティア作業や企業、各種団体等に道路アダプト制度による美化活動をしていただき、とても感謝しております。今後とも市民の方々と連携しながら適切な管理に努めてまいります。

なお、目が行き届かない箇所もあると思われることから、危険と思われる箇所などがありましたら、市役所までご連絡をお願いします。

次に、歩道については、歩車道を分離し歩行者等を守るため、コンクリートブロックによる段差を設け安全を確保していましたが、道路の交差点や宅地への乗入れなどにより、歩道が波のようになり、歩行者や自転車、また車椅子など通行しづらい状況があったことから、現在は、コンクリートブロックによる歩車道の分離を行いながら、車道と

2 枚目に続きます

歩道の高さを同じにすることで歩行者等が通行しやすい整備を進めています。

なお、これまでの段差のある歩道には、通行に支障がある箇所もあることから、今後

は緊急性など考慮しながら、市民が安全に過ごせる環境づくりのため、段差の少ない人に優しい道路整備に取り組んでまいります。

件名	農業の担い手の育成・確保のための取組	提言順位	3
		提言者	藤澤議員
		答弁者	中重市長
		主務課	農政畜産課

NO. 1 / 1

(答弁) 藤澤（ふじさわ）議員からのご提言について、お答えします。

本市の農業を取り巻く状況は、農業従事者の高齢化による離農や休耕地が増加しており、農業の担い手の確保は議員ご指摘のとおり、本市のみならず全国的に深刻な課題となっている中、貴重なご提言をいただき、感謝申し上げます。

本市の取組みとしては、先ずは知っていただく、そして来ていただく、さらには住んでいただくため、市内の観光などの魅力ある情報をホームページやソーシャルネットワークシステム（SNS）等で積極的に、また分かりやすく情報発信に努めているところです。

農業については、就農を希望する方々の相談窓口として、平成30年度に、JAあいらや県、市、農業委員会などで組織する「霧島市新規就農支援センター」を設立し、担い手となる新規就農者の確保や育成に努めています。同センターを通じた相談・就農実績は、設立からの3年間で相談件数は72件、新規就農者は38名となっており、このうち、市外からの相談件数は11件、新規就農者は9名、うち、県外から5名となっています。なお、新たに就農する方への農地の紹介は、農業委員会が窓口となり、空き家住宅等の紹介は、空き家バンクで行っています。

さらに、本市の農業について多くの方々に体験してもらう取組みとして、観光PR課や農政畜産課、観光協会等により組織する「霧島高原自然体験ツーリズム協議会」において、体験メニューパンフレットの「体験 まるまる きりしま」を作成しています。その中の農林漁業体験メニューでは、果樹農家体験や茶摘みなど7つのメニューがあり、これまで学校や団体等で広く活用されています。

今後も関係機関と連携し、更に本市の農業をはじめとする魅力ある情報を発信し、議員ご提言の未来の農業を担う人材の確保に努めていきたいと考えています。

最後に、議員におかれましても、ぜひ本市の農業に興味を持っていただき、将来担い手の1人になっていただければ非常にありがたいと思います。

件 名	子どものスポーツ振興を目指す取組	提言順位	4
		提言者	井ノ上議員
		答弁者	中重市長
		主務課	スポーツ・文化振興課

NO. 1 / 1

(答弁)

井ノ上（いのうえ）議員のご提言について、お答えします。

横川運動公園は、合併前の旧横川町において、平成4年度から6年度にかけて、体育館、温

水プール、運動場、庭球場、ジョギングコースが整備されました。このうち、体育館は議員からありましたとおり、令和2年度に開催される予定でした「かごしま国体」の会場として、照明のLED化

やトイレの洋式化をはじめ、音響設備やシャワー室などの改修を行い、市民の皆様に気持ち良く利用していただける環境を整備したところです。

一方で、運動場につきましては、運動場内の数箇所で陥没が発生しましたので、利用者の安全を最優先するため利用を停止し、これまで原因を調査してきたところです。今後、安全に利用

できるようにするための改修には大変大きな予算が必要となりますので、本市の財政状況も踏まえながら慎重に検討していきたいと考えています。

横川中学校のテニスコートにつきましては、設置から長年経過しているため老朽化している状況です。議員からご提言のありました横川運動公園のテニスコートを利用することもひとつの方

策ですが、中学校から約2キロ離れており、移動手段等の確保についても課題となりますので、様々な観点から検討する必要があります。

また、体育施設を利用するときの団体や個人の負担軽減につきましては、本市では、部活動で利用するときには半額を免除しており、校舎改修など、止むを得ない事情がある場合には全額

を免除しています。さらに、スポーツ少年団やスポーツ協会などの団体が大会を開催するときには、利用料の一部を免除して負担を軽減しているところです。

議員が提言された施設の効率的な活用による子どものスポーツ振興を目指す取組は、本市の施設のあり方を検討していく上でも、とても大切な視点です。横川運動公園の効率的な活用や横

川中学校のテニスコートの状況を考慮した負担の軽減ができないか検討してまいります。

貴重なご提言、ありがとうございました。

件名	市民活動の支援と協働の推進のための取組	提言順位	5
		提言者	久保田議員
		答弁者	中重市長
		主務課	地域政策課

NO. 1 / 1

(答弁)

久保田（くぼた）議員のご提言について、お答えします。

住みなれた地域の自然や特産品などを生かしながら、様々な体験を楽しむことを通じて、地域の活性化を図ろうとする、地元愛にあふれた前向きなご提言をいただき、感謝申し上げます。

農業などの体験活動は、地域の自然や産品、文化を学ぶ機会になるとともに、生産者をはじめ、世代を超えた交流が図られるなど、地域の活性化に繋がるものと考えており、本

市においては、各地区自治公民館が自主的に取り組む体験活動や地域の産品を利用した食品加工などの活動支援を通じて、市民の皆様がふれあう機会づくりを推進しています。

具体的には、各地区の自治会等において、サツマイモやソバなどの収穫、調理の体験活動が行われているほか、市内の農産物等の加工施設では、家族やグループ単位で味噌やふ

くれ菓子作りなどが行われています。

また、議員がお住まいの霧島地区では、郷土料理の伝承や食と農業の体験活動を行って

いるNPO法人霧島食育研究会が、調理実習室を備えている霧島保健福祉センターを会場として、「霧島・食の文化祭」を毎年開催されており、子どもからお年寄りまで一緒にな

って郷土料理やお菓子作りを楽しむイベントなどが行われています。

このほか、修学旅行生などの団体等を対象とした様々な体験メニューを提供している霧

島高原ツーリズム協議会においては、生産農家の方々の協力をいただきながら、お茶摘みやブドウ狩りなどの農業体験の受け入れを行っており、市外の方にも本市の魅力を発信す

るとともに、地域の方々との交流を通じて、多くの人が訪れ、住みたくなる地域づくりを行っているところです。

今後も引き続き、既にある施設の活用や体験メニューなどの更なる情報発信に努めてまいります。議員の皆さんも地域で開催される交流活動などがありましたら、ぜひ参加いた

だき、地域の活性化に貢献していただきたいと思います。

件 名	霧島市を音楽でつなぐ取組	提言順位	6
		提言者	塩田議員
		答弁者	中重市長
		主務課	スポーツ・文化振興課

NO. 1 / 1

(答弁)

塩田（しおた）議員のご提言について、お答えします。

鹿児島県は日本における吹奏楽の発祥の地とされています。薩英戦争後の 1869 年、

明治 2 年に薩摩藩が日本初の音楽隊を結成したのが始まりで、本市では中学校で 8 校、高校で 7 校に吹奏楽部があります。また、1980 年、昭和 55 年に始まった国内で最も歴史の

ある霧島国際音楽祭は、今年で第 42 回を数え、7 月 15 日から 8 月 1 日までの 2 週間、牧園町のみやまコンセールを主会場にたくさんの演奏会が行われました。

議員から提言のありましたとおり、オーケストラはたくさんの楽器が様々な音色を奏でながら一つの音楽を作り上げていく素晴らしいものです。先日まで開催されていた東京

2020 オリンピックでも、多くの競技で日本選手が一丸となりメダルを獲得する姿が、私たち国民に感動と勇気を与えてくれました。来週からは、パラリンピックも始まりますの

で、引き続き声援を送りたいと思います。

今回、議員からいただきましたご提言は、霧島国際音楽祭が開催される本市にとっても、

とても有意義で魅力的なアイデアだと思います。過去には、音楽祭の期間中に市内の中学校や高校の吹奏楽部の生徒と、音楽祭に出演する演奏家との合同演奏が行われたこともあ

ります。さらに、本市には、民間の吹奏楽団やオーケストラもあり、多くの市民の皆さんが演奏者としても音楽を楽しまれています。

一方、本市では、オーケストラで演奏されるクラシックだけでなく、例えば国分の下井海岸では、桜島を背景に様々なジャンルの音楽を楽しむ音楽フェスなど、霧島の自然と音

楽を融合させたイベントも行われています。

今回の議員の提言を踏まえ、音楽を通して学生が一つになれるような取組ができないか

検討してまいります。

貴重なご提言、ありがとうございました。

件名	「人にやさしく 人をはぐくむ、一人ひとりが輝きにぎわう、多機能都市」の実現・充実を目指した取組	提言順位	7
		提言者	百原議員
		答弁者	中重市長
		主務課	秘書広報課

NO. 1 / 1

(答弁)

百原（ももはら）議員のご提言について、お答えします。

議員が市政情報を分かりやすく公開したり発信したりすることについて興味を持たれたことは、とても重要なことであり、私も様々な行政情報を分かりやすく市民の皆様に伝えることは、市の責務だと考えています。

本市では現在、広報誌やホームページ、フェイスブック、ツイッターなど多くのソーシャルネットワークシステム（SNS）や、ユーチューブなどの動画サイトなどを活用して

本市の情報を発信しています。そして、本年4月からはスマートフォン等にダウンロードすることによって、災害など重要な情報がプッシュ通知される市独自のアプリ「きりしま

防災・行政ナビ」の運用を開始しました。このアプリは、屋外スピーカーの音声が届かない地域等や外国人、聴覚に障がいを持った方などへの情報手段としても、また、防災情報

以外にも、新型コロナウイルス感染予防対策や新型コロナワクチン予防接種の予約方法の案内などのコロナ関連情報、女性検診や胃がん・大腸がん・肺がん・腹部超音波検診など

の日程をお知らせする保健情報等の行政情報を発信しております。この他にも、ごみの分別の仕方を調べるだけでなくごみ出しの日が一目で分かり、前日や当日の指定した時間に

通知する機能もある、ごみ分別促進アプリ「さんあーる」など暮らしに役立つ情報も発信しています。議員ご提言の既存アプリを利用した情報発信も検討しましたが、ハザードマ

ップや避難所の混雑状況などの確認機能が充実しているなどの理由から「きりしま防災・行政ナビ」を導入することに決定したものです。

今後とも市政情報の発信については、SNSなどを活用し、充実したものとなるよう努めてまいりますので、どうか議員の皆さんにも、SNSなどで本市の情報を自主的に発信

していただいたり、シェアしていただきますようよろしくお願いします。

件 名	多様なニーズに応じた子育て環境の充実のための取組	提言順位	8
		提言者	別府議員
		答弁者	中重市長
		主務課	市民課

NO. 1 / 1

(答弁)

別府（べっぶ）議員のご提言について、お答えします。

議員におかれましては、一人ひとりが互いに人権を尊重し、国籍や年齢、性の違い、障害の有無等にかかわらず、多様性を認め合いながら、いきいきと暮らせるまちの実現に関心を寄せられており、大変すばらしいことだと思います。

さて、本市では、本年3月に策定した「第6期障害福祉計画」及び「第2期障がい児福祉計画」に基づき、障害のあるすべての方が住み慣れた地域で安心して生活できるよう、

それぞれのニーズに応じた福祉サービスを提供しています。

また、鹿児島県では、平成31年度にカード型の「ヘルプカード」、本年度からはストラ

ップ型の「ヘルプマーク」を作成導入し、外見からは分からない障害等のある方が、日常的な手助けが必要な場合や災害時等に意思表示できるアイテムとして活用を促しており、

本市の担当窓口等でも配布しています。

一方、LGBTは性的少数者を表す言葉の一つとして使われています。現在、性的指向

や性自認は人それぞれであり、多様であることが分かっています。

本市では、広報きりしま平成30年9月号において「誰にでもある苦手なこと」と題して

発達障害に関する特集をしたほか、平成31年2月号で「きっと、幸せになろう」と題して様々な人権問題について取り上げ、トランスジェンダーの方のインタビューを掲載してい

ます。

また、市民等を対象にした「ユニバーサルマナー研修会」や、「性別で見る多様性と人

権」に関する研修など、障害のある方や性的少数者への理解を深める学習会や講演会等を実施しているところです。引き続きこのような取組を通じて、市民の皆様へ周知に努め、

障害のある方や性的少数者と共に生きる環境づくりを進めていきます。

貴重なご提言、ありがとうございました。

件名	ごみの減量化・資源化のための取組	提言順位	9
		提言者	徳永議員
		答弁者	中重市長
		主務課	環境衛生課

NO. 1 / 1

(答弁)

徳永（とくなが）議員のご提言について、お答えします。

私たちは、高度経済成長による経済活動の活発化に伴った大量生産・大量消費・大量投棄型社会の中で、貴重な天然資源を消費し、多くのごみを廃棄物として排出しており、環境への負荷を与え続けた結果、地球温暖化や森林の減少、天然資源の枯渇など地球規模での環境問題に直面しています。これらの環境問題を解決するため、従来のライフスタイルを見直し、環境負荷ができる限り低減される循環型社会を実現する必要があります。

このような中、ごみの減量化・資源化のために、ごみの発生を回避する「リフューズ」、ごみの発生を抑制する「リデュース」、捨てないで繰り返し使う「リユース」、資源として再生する「リサイクル」の4Rを大切にしたいとされている議員は、循環型社会の形成の重要性をよく理解していただいているものと考えます。

本市においても、市民、事業者、行政が協働し、4Rの推進を図るため、平成29年5月に「霧島市ごみ減量化・資源化基本方針」を策定し、さらに、基本方針に基づく目標を達成するための市民、事業者、市のそれぞれの具体的な取組を示した「霧島市ごみ減量化・資源化基本方針の具体的取組」を平成31年2月に策定し、公表しています。皆様や事業者、行政がこの具体的取組を持続的に実行することで、循環型社会が実現します。

具体的には、皆様の身近にあるスマートフォンを活用した、ごみの分別の仕方やごみ出しの日がわかるごみ分別アプリ「さんあーる」の利用促進、本市職員が小学校等へ出向き講座を開く出前講座やごみ処理施設の見学会を活用した環境学習の実施など、ごみの減量化や資源化に関する周知・啓発を行っています。

今後も様々な機会を通じて、より一層、情報発信や啓発活動などに取り組んでいきますので、皆様も積極的に協力してくださるようお願いいたします。

件 名	魅力ある霧島市立国分中央高等学校の推進のための取組	提言順位	10
		提言者	ライリー議員
		答弁者	中重市長
		主務課	企画政策課

NO. 1/1

(答弁)

ライリー議員のご提言について、お答えします。

国分中央高校は、本年度で創立115年の伝統ある市立の高等学校であり、4つの専門学科それぞれが特色ある教育活動を展開しています。この伝統ある学校で学ぶ議員が、校内での活動にとどまらず、校外での活動に積極的に参加することによって、学校の魅力を更に発信したいという、立派な志をお持ちであることを大変頼もしく思います。

私は、将来のまちづくりに向けては、地域ならではの新しい価値を創造し、地域を支えることのできる人材の育成が必要であり、そのためには、中高生等が地域の魅力を知り、地域に愛着を持てる機会を創出することが重要であると考えています。この機会のひとつとして、市内の中学生、高校生、大学生等が本市の暮らしや未来について語り合い、市政に関する提言を行う「霧島市青少年議会」を開催し、青少年のまちづくりへの関心を高めるとともに、いただいた提言を市政に反映させられるよう努めているところです。

また、これまで国分中央高校の生徒の皆さんには、昨年11月に開催した「霧島市農商工連携がんばろう市」での園芸工学科の皆さんが育てた花や野菜苗の販売や、「霧島ふるさと祭」でのビジネス情報科の皆さんが商品開発に携わったお菓子のPR、「霧島国分夏まつり」の総踊りへの参加など、本市で開催される大きなイベントの賑わいに貢献していただくとともに、市内外から訪れた多くの来場者に、学習活動の成果と学校の魅力をPRしていただいています。現在は、新型コロナウイルス感染症の影響により、様々な活動が制約を受けていますが、引き続き、感染症対策やワクチン接種を進めながら、各種イベントの開催に努めていくとともに、初午祭等の実行委員会が主催するイベントについても、国分中央高校をはじめ各学校の生徒の皆さんが、企画や運営など様々な場面で参画できるように検討をお願いしたいと考えています。是非、議員の皆さんも本市で開催されるイベントに積極的に参加し、各学校の活動成果や魅力を市内外に発信していただきたいと思います。

これからの本市の発展を担う皆さん方の活躍を期待しています。

件名	多様な人材を生かした雇用の促進のための取組	提言順位	11
		提言者	坂元議員
		答弁者	中重市長
		主務課	長寿・障害福祉課／商工振興課

NO. 1 / 2

(答弁)

坂元（さかもと）議員のご提言について、お答えします。

本市の民間企業における障がい者の雇用状況は、鹿児島労働局の公表によりますと、平成29年6月現在で164人、令和2年6月現在では202人と増加傾向にあるものの、働く意欲を持つ障がい者を受け入れる体制が整っていないなどの理由から雇用に至らない現状があり、就労環境は依然厳しい状況にあります。

厚生労働省は、企業等に対し従来の身体障がい者等の雇用義務に加え、平成30年4月から精神障がい者の雇用を義務付け、令和3年3月からは障がい者の法定雇用率を引き上げたことから、障害のある方の民間企業等への雇用機会の拡大が期待されるところです。

議員が、障害等を抱える方の就労環境が厳しい現状を受け止め、大分県別府市の社会福祉法人「太陽の家」の施設運営を取り上げ、障がい者が自立していくための環境づくりを提言されたことは大変すばらしいことだと思います。

この「太陽の家」は昭和40年に創設され、障害のある方の働く場となる複合的施設において、企業による出資や支援協力のもとで障がい者の就労機会を確保する全国的にも例を見ない地域独自の取組であると考えています。

現在、本市におきましては、障がい者が自立した生活を維持できるよう、障害を抱える方の能力や障害の程度に応じて、就労に必要な知識及び能力を修得するための支援や、一般就労へ移行したことに伴う環境変化により生活面の課題が生じている方を対象とした企業や関係機関等との連絡調整、課題解決に向けた支援など、障がい者就労支援事業所等と連携し、一般雇用を目指した福祉的就労の促進や就労機会の確保に努めているところです。

障害のある方が就労され、社会経済活動に参加することは、社会にとっても大変有益な

ことであり、障害のある方自身の生きがいにも繋がるものと思いますので、まずは障がい者を支援する行政・地域・民間企業等の協力体制の充実や、公共職業安定所等と連携し、

障害や障害のある方に対する企業・職場の正しい理解を深める啓発等に更に努めながら、障がい者が安心して働きやすい環境づくりを進めてまいります。

2枚目に続きます

次に、2点目にお答えします。

鹿児島労働局の公表によりますと、本市を含む始良・伊佐地区の企業で雇用されている

外国人労働者数は、令和2年10月現在で911人であり、5年前の平成27年10月時点の298人と比較すると、3倍以上となっており、昨今の技能実習制度の普及と相まって急速な増加

を見せているところです。

今後とも外国人労働者の増加が予想される状況において、外国人も働きやすい環境づく

りのために、社内の日本人労働者との相互理解と共生を図る取組をもって人材の多様化を支援し、多様さを認め合う社会を実現するという議員のご提言は、まさに現在のわが国が

抱える課題と対応の方向性を的確にとらえた、大変素晴らしい着眼点であると感じました。ご提言、誠にありがとうございます。

現時点でご提言のような取組事例は確認されませんでした。市内企業では外国人労働者の買い物や移動に関する補助といった生活上の支援やレクリエーションへの参加を通じ

た文化交流など、それぞれの企業で実情に応じた取組を行っているものと把握しています。

本市としましては、企業や公共職業安定所等の関係機関との密な連携を図りつつ、先ほ

どお答えした取組と併せて、人材の多様化を図ることの重要性の普及啓発や事例紹介、社内や地域との交流の機会として本市が関係するイベントに会社単位で参加を案内するなど

の取組を着実に推進することで、外国人も障害のある方も等しく働きやすい環境づくりに努めてまいります。

件 名	自助・共助を主体とした地域防災力の強化のための取組	提言順位	12
		提言者	加来議員
		答弁者	中重市長
		主務課	安心安全課

NO. 1 / 1

(答弁)

加来（かく）議員のご提言について、お答えします。

大規模災害時には、住民一人ひとりが「自分の命は自分で守る」という意識を持ち、地域においては、「自分たちの地域は自分たちで守る」という意識のもと、住民の助け合いにより、地域の特性に合った災害対策を行うことが大切になります。

議員の提言にある自助・共助を主体とした地域防災は、まさにこのことであり、今回、その強化のための取組を提言されたことに感銘を受けるとともに、本市地域防災がさらに力強くなるものと大変頼もしく思っています。

議員からの提言の地域防災力の強化のための取組につきましては、本年4月、市のハザードマップを更新し、これまでの情報に加え、災害時に開設した避難所やその混み具合を表示できるようになりました。この情報は、スマートフォン等にダウンロードして使用するアプリケーションである、「きりしま防災・行政ナビ」を活用することで容易に確認することができます。

市内の先進的な地域では、本市と連携し、オリジナルの地域防災マップを作成しています。これは、地域住民自らがまち歩きを行い、本市のハザードマップも参考にしながら、災害時に役立つ場所や危険な箇所を確認し、これらの情報を地図上に書き込んだものです。また、地域住民が迅速かつ安全に避難するためには、全員が防災に対する意識を高め、

災害時の行動を理解し、身につけておくことが大切です。このため、本市では、防災出前講座などにより防災意識の啓発に努めるとともに、地域が行う避難訓練についても積極的に支援しています。

このように、議員からの提言はまさに本市防災の考えに沿ったものであり、本市としても、引き続き、防災意識の高揚や地域防災力の強化に取り組んでまいります。

件 名	地域間教育格差のない街を目指す取組	提言順位	13
		提言者	杉田議員
		答弁者	中重市長
		主務課	横川地域振興課

NO. 1 / 1

(答弁)

杉田（すぎた）議員のご提言について、お答えします。

今回のご提言は、合併前の状況を引き継ぎ、各地域でさまざまな違いがあることに焦点をあてた、素晴らしい内容だと思います。

スクールバスについては、市内でも運行している地区、運行していない地区、また部活動への対応状況でも違いがあります。

横川地区については、横川中学校へ通うための専用のスクールバスが1台あり、そのほかに、横川地区のふれあいバス2台を朝夕それぞれスクール便として運行しています。議

員が利用している佐々木地区を走るバスは、このふれあいバスのスクール便です。

今回、ご提言のふれあいバスの臨時便については、運行時刻表の都合やバス会社の事情によって運行できないこともあります。そのため、一部の保護者にはご負担をおかけしているところです。

また、部活動後のバスについては、専用のスクールバスは1台であり、安良、佐々木の両方向への同時運行が叶わないため、対応できていない状況です。

今後、ご提言を踏まえ、部活動を含めた教育活動が充実するよう、通学上の負担を少しでも軽減できる様々な方法を検討してまいります。

貴重なご提言、ありがとうございました。

件名	ごみの減量化・資源化のための取組	提言順位	14
		提言者	上松瀬議員
		答弁者	中重市長
		主務課	環境衛生課

NO. 1 / 1

(答弁)

上松瀬（かみまつせ）議員のご提言について、お答えします。

先ほど、徳永（とくなが）議員のご提言に対しお答えしたとおり、私たちは、高度経済成長による経済活動の活発化に伴った大量生産・大量消費・大量投棄型社会の中で、貴重な天然資源を消費し、多くのごみを廃棄物として排出しており、環境への負荷を与え続けた結果、地球温暖化や森林の減少、天然資源の枯渇など地球規模での環境問題に直面しています。これらの環境問題を解決するため、従来のライフスタイルを見直し、環境負荷ができる限り低減される循環型社会を実現する必要があります。

このような中、「捨てればごみ、再利用すれば資源」というキーワードを家庭でいつも耳にしている議員は、循環型社会の形成の重要性をよく理解していただいているものと考えます。

本市においても、市民、事業者、行政が協働し、4Rの推進を図るため、平成29年5月に「霧島市ごみ減量化・資源化基本方針」を策定し、さらに、基本方針に基づく目標を達成するための市民、事業者、市のそれぞれの具体的な取組を示した「霧島市ごみ減量化・資源化基本方針の具体的な取組」を平成31年2月に策定し、公表しています。皆様や事業者、行政がこの具体的な取組を持続的に実行することで、循環型社会が実現します。

本市内には、分別された資源物を新しいものに再生し、製品化している工場等が無いため、その再生過程を見学することはできませんが、例えば、ペットボトルの場合、皆さんの身の回りにある卵パックやカーペットとして再製品化されています。

今後も様々な機会を通じて、再製品化されたものを紹介することも含め、より一層、情報発信や啓発活動などに取り組んでいきますので、皆様も積極的に協力して下さるようお願いいたします。

件名	市の将来を担う子どもたちに負担を残さない公共施設のあり方について	提言順位	15
		提言者	山下議員
		答弁者	中重市長
		主務課	財産管理課

NO. 1 / 1

(答弁)

山下（やました）議員のご提言について、お答えします。

本市の健全財政の堅持と適切な公共サービスを両立していくために、平成27年に「霧島

市公共施設管理計画」を策定し、公共施設の保有量の見直し等に取り組んでいます。

同計画では、本市が保有する公共施設について、今後40年間の更新や大規模改修等に要

する費用を試算すると、3,187億円となり、1年あたりの額に換算すると80億円が必要であると想定しています。これは現在の更新や維持管理に投じている予算額46億円の約1.7倍

に相当し、年間34億円が不足する結果となります。特に、公共施設全体の40%以上がすでに築30年以上を経過していることから施設の老朽化への対応が求められています。

ご提言のとおり、学校の余裕教室等を活用して公共等のニーズを取り込み、学校施設を複合化・多機能化することで公共施設を削減しながら公共サービスを維持していくという

方法は、霧島市公共施設管理計画を推進する上で合理的な手法であることから、今後の小学校の35人学級への対応や特別支援学級等の整備による教室等の利用を見込んだ上で、余

裕教室がある学校について複合化・多機能化することが可能かどうかを適切な施設の管理運営等の課題も含めて検討する必要があると考えています。

なお、本市で学校施設を活用している事例としては、霧島田口にある大田小学校内に大田幼稚園を設置していることや、牧園町の中津川小学校内で放課後児童クラブを開設しています。

公共施設の老朽化への対応は、地方公共団体が抱える重要な課題であり、その取組み次

第では、将来を担う子どもたちに大きな負担を残しかねません。

議員には、そのような課題を自分のことのように捉えて具体的な解決手法を示していた

いただきました。これからも様々な手法を活用しながら取組みを推進し、次世代に継承できるまちの実現を図ってまいります。貴重なご提言、ありがとうございました。

件 名	市の将来を担う子どもたちのための公共施設のあり方について	提言順位	16
		提言者	齋藤議員
		答弁者	中重市長
		主務課	メディアセンター

NO. 1 / 1

(答弁)

齋藤(さいとう)議員のご提言について、お答えします。

これからの社会は、人工知能(AI)やビッグデータ等の先端技術が飛躍的に発展し、これらの

技術があらゆる産業や社会生活に取り入れられ、私たちの生活は劇的に便利で快適なものになっていくと言われています。

一方で、そのような社会に必要な先端技術の基礎となる情報科学に精通し、研究開発を進めていく人材をどのように養成していくかが、一つの課題となっています。

このような状況を踏まえると、ICT機器を活用する能力を高めるためだけでなく、アプリケーションの開発等に必要なプログラミングや設計等にも興味や関心を持って学べる環境を整えることは、

大切なことであると考えます。

現在メディアセンターのICT体験コーナーには、誰でも使えるパソコンを数台設置していますが、

公共施設として使用上の一定の制約があり、自由にプログラミング等が学べる状況にはありません。

また、市民向けのパソコンやタブレット等に関する講座や、夏休みに小学生対象のプログラミング講座等を実施していますが、より深くプログラミングを学ぶ内容ではありません。

今後、関係部署と連携し、メディアセンターにあるパソコンやタブレットを活用した新しい講座の開設や学習スペースの確保をはじめ、学校で整備された一人一台端末等の活用も視野に入れ、

より幅広い世代のニーズに対応できる学習環境の提供について検討を進めていきます。

霧島の将来を担う子どもたちが、生涯にわたって学び続けることのできる学習環境づくりに今

後も努めてまいります。貴重なご提言、ありがとうございました。

件 名	霧島市の子育て環境の充実の取組	提言順位	17
		提言者	内議員
		答弁者	中重市長
		主務課	子育て支援課

NO. 1/1

(答弁)

内(うち)議員のご提言について、お答えします。

子育て環境の充実を図る上で、保護者や子どもの交流の場や子育てに対する相談支援体

制の充実は欠かすことができないものであり、保育士を目指されている議員からのご提言は大変有意義であるとともに、その将来を頼もしく感じているところです。

本市の専門的な相談窓口としては、妊娠・出産・子育てなどの相談に関して「子育て世代包括支援センター」を、子どもを取り巻く複合的な課題の相談に関して「こども・くら

し相談センター」を設置し、保健師や社会福祉士等の専門職による相談支援を実施しているところです。

また、子どもやその保護者等に交流の場を提供するとともに、子どもや子育てに関する相談に対して総合的に対応する「子育て支援センター」を市内10箇所に配置しており、小

学校就学前の子ども及びその保護者を対象とした保育士等による親子体操や工作、絵本の読み聞かせ、季節ごとの催物等、様々な親子参加型のイベントの開催のほか、子育てに関

する講習会等を実施しています。

さらに、先月には、子どもたちへの様々な遊びの提供や保護者や子どもたちにとっての

憩いの場として、「霧島市こども館」を開館しました。この施設は、豊かな自然の中、天候を気にせず子どもたちが思い切り遊び、保護者も日々の疲れをリフレッシュできるよう

な施設となっています。議員もぜひ足をお運びください。

今後も引き続き、更なる子育て環境の充実に積極的に取り組んでまいります。

貴重なご提言、ありがとうございました。

